

地元のシンボルであるツルの保全を 都市住民との交流に繋げて地域活性化

山口県：ツルの^{さと}郷を守る会

○団体の活動目的と経緯は？

【目的】

少子高齢化が進行する本地域の農地や施設の維持及び地域全体の活性化

【経緯】

本地域は、本州で唯一のナベツルの渡来地であり、人々がツルと共に生活してきた地域であったが、近年ツルの減少傾向にあり、農地や施設を維持していくことが困難になってきていることから、本組織を設立・活動を開始した。



ドジョウの放流

○環境保全施設と関連情報

【環境保全施設】水田、水路（フリーロックによる多自然型）

【活用した事業等】県営ほ場整備事業（一般型）

【保全対象生物】ナベツル、ツルの餌となる生物（ドジョウ等）

○どんな生態系保全の取組を実施？

1. 生物多様性の保全

①生態系保全型の農業

- ・ 水稻の化学合成農薬・化学肥料削減栽培、冬期湛水によって、ツルやその餌となるドジョウ等の生息環境の保全

2. 伝統文化の継承

①ツルの越冬環境の景観づくり

- ・ 県外のボランティアも参加して伝統文化である「のう」と呼ばれるわら積みを作成

3. 地域振興

①イベント（ウォーク大会や収穫祭）への参加

- ・ 地域住民や関係団体だけでなく、多くの都市住民との交流のため、地区主催のウォーク大会に20年以上継続して参加

4. 体験学習と教育

①小学生を対象とした水辺の学校の開催

- ・ 農業体験やツルの観察等



伝統文化「のう」



冬期湛水のぬか撒き

○継続した活動でこんな効果が！！



排水路の様子

■生きものの生息環境の向上

- ・水稻の化学合成農薬・化学肥料削減栽培や冬期湛水により、生きものの生息環境が向上した。

■農産物のブランド化

- ・地区内で栽培した米やその米を原料とした日本酒をブランド化につなげた。

■若者が農業の担い手となっている

- ・保全活動によって、20～30 代の若者世代が農業活動に参加してきている。

○課題・苦労した点

■活動従事者の高齢化、若年者減少

- ・60 代でも若いという状況となっており、高齢化、若年者の減少が進んでいる。

■保全活動等の知識や経験不足

- ・活動に対する知識や経験を持つ者が不足していた。

○工夫した点

■都市部などの外部から募集

- ・都市住民や企業等のボランティアを活用。他の団体と連携して、HP や SNS、市広報などを通して募集をしている。また、毎年来る団体については郵送をしていて、リピーターの確保に繋げている。

■専門家を招いて知識・経験不足を補填

- ・環境教育では、行政から先生を紹介してもらっている。さらに、同様の活動を先進的に実施している地区から、指導者を招いている。

○活動の特徴！！

■他の団体と連携した担い手確保

- ・同地区内のツル保護団体と連携して HP や SNS などを利用して情報公開とボランティア募集を実施。毎年参加してくれる団体等には、別途郵送による招待をすることで、活動の継続性を高めている。



○団体の概要は？

- ・平成 19 年度に設立され、活動エリアは山口県周南市八代地区(旧八代村辺り)としている。
- ・任意団体であり、人数は約 150 名。
- ・年間運営費は補助金が 100%となっている。
- ・年間活動日数は、約 25 日である。

